

野村インベストメントフォーラム 2011

富士フイルムホールディングス株式会社

2011年12月1日

代表取締役社長・CEO 古森重隆

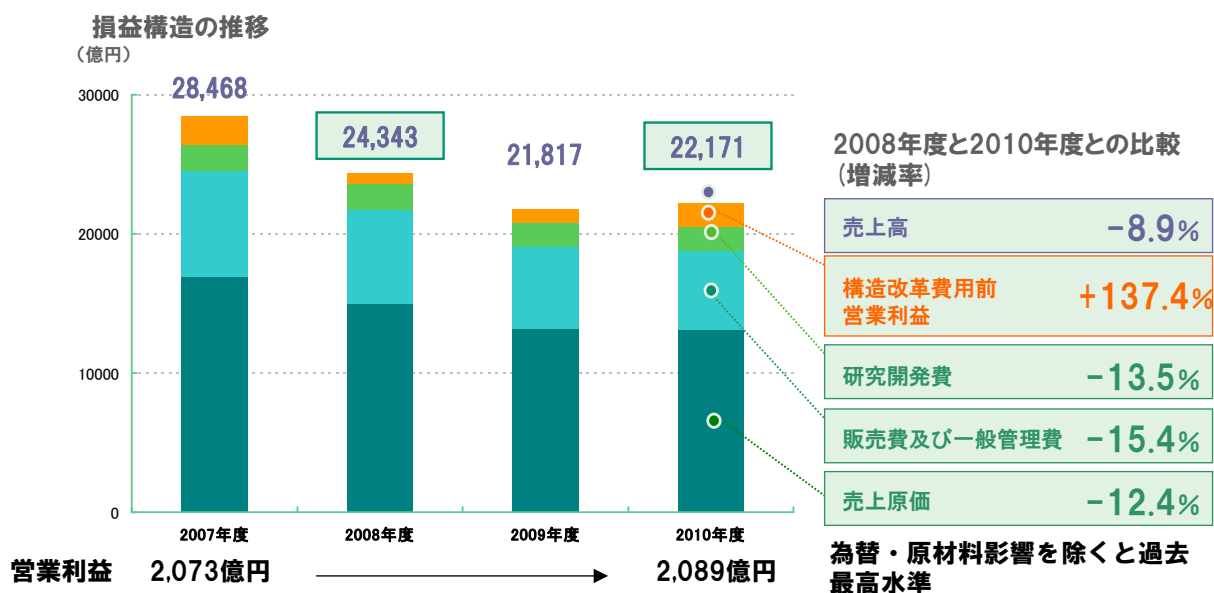
本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

構造改革の完遂

FUJIFILM

2009年度～2010年度 筋肉質な企業体質を構築

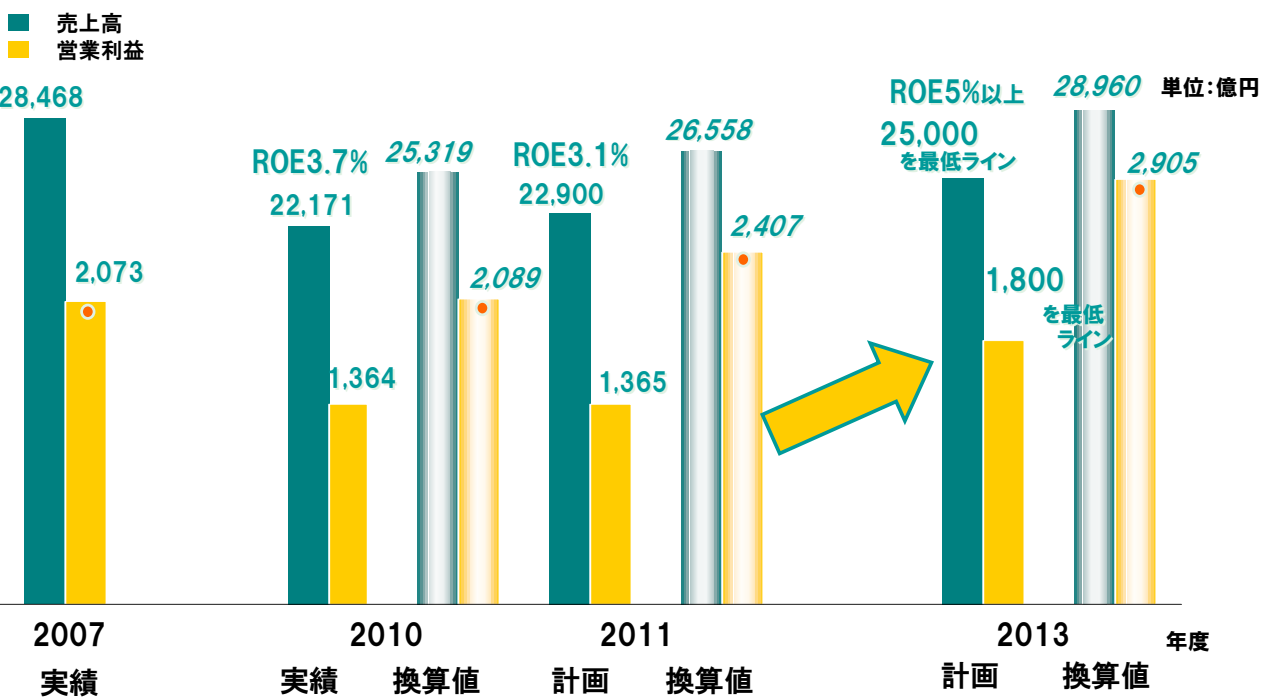
2011年度以降は新たな成長のステージ



- 1 中長期の経営目標値は？
- 2 中長期で成長するための中核事業は？
- 3 成長を支える地域戦略は？
- 4 事業の足下の状況は？
- 5 キャッシュフローの用途は？

Q 1 中長期の経営目標値は？

- ・過去最高益達成(2007年度)水準に換算すると、実質的には最高益更新基調
- ・早期に過去最高益更新・ROE10%達成を目指す



Q2 中長期で成長するための中核事業は？

FUJIFILM

ヘルスケア



医薬品

ライフサイエンス

メディカル

2010年度売上高 2,677億円 → 2013年度売上高目標 3,700億円

高機能材料



2010年度売上高 2,922億円 → 2013年度売上高目標 3,300億円

ドキュメント

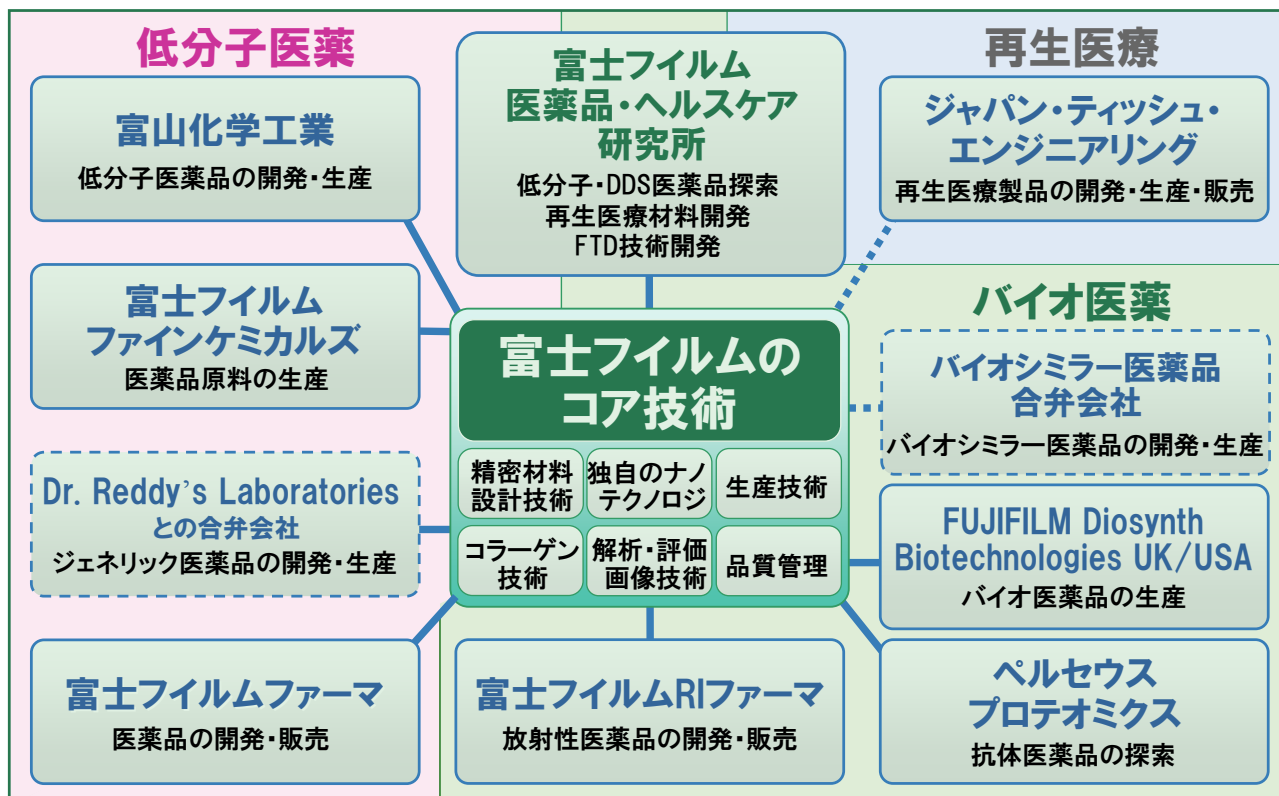


2010年度売上高 9,739億円 → 2013年度売上高目標 11,000億円
営業利益率9% 営業利益率10%以上

4

医薬品事業

FUJIFILM



5

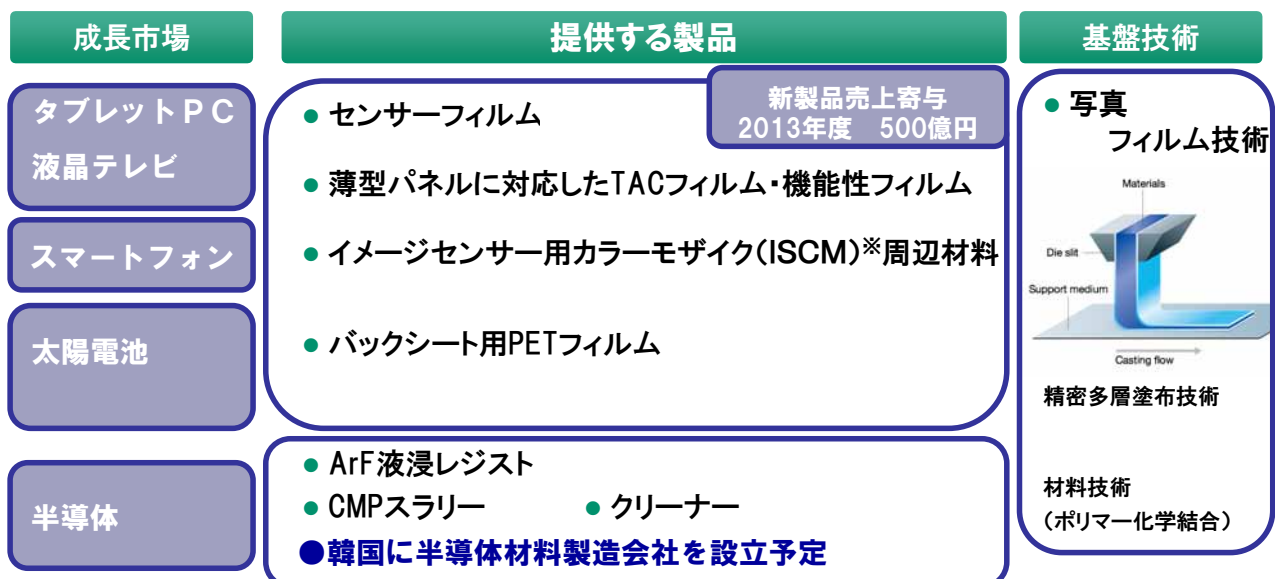
技術資産を総動員して、真にユニークな スペシャリティーファーマとしての存在感を示す

- ・ 病態ドメイン(対象疾患)
アンメット・メディカルニーズの高い領域に設定
(がん、中枢神経、炎症・免疫、新感染症)
- ・ 富士フィルムのコア技術を活かす
 - ・精密材料設計技術
 - ・コーゲン技術
 - ・独自のナノテクノロジー
 - ・解析・評価・画像技術
 - ・生産技術
 - ・品質管理
- ・ 総合ヘルスケアカンパニーを目指す(予防・診断・治療)

6

高機能材料事業

- ・機能性材料の開発力を活かし、高成長する市場向けの新製品を連続して立ち上げる
- ・液晶テレビ・モニターなどの既存領域では収益性を確保し、中核事業として成長を継続

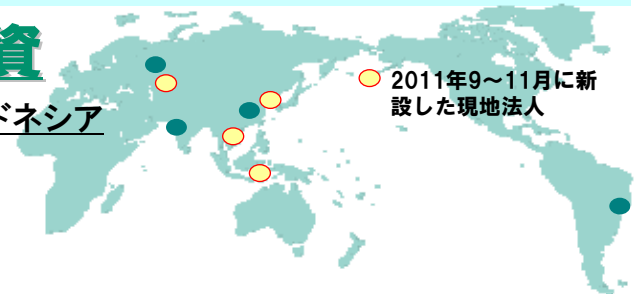


※デジタルカメラや携帯電話にも使用されるイメージセンサーの基幹部材であるカラーフィルター向けの着色感光材料製品
現在 80%を超えるナンバーワンシェア

7

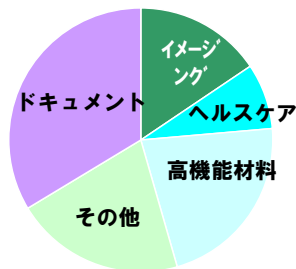
新規市場開拓への集中投資

BRICsに続き、ウクライナ・韓国・ベトナム・インドネシアにも現地法人を設立し、販売体制を強化



●中国市場での成長を牽引

中国市場売上内訳



▶ ドキュメント事業

思い切ったリソース投入でさらなる成長を加速

中国市場での富士ゼロックスの強み：

- ✓高い直販比率・アフター契約比率
- ✓深圳工場での中国最適化製品の生産

成長の加速：

- ✓ローエンド・量販ビジネス・MPSにも注力し中国事業全体を拡大

A4機で20%のシェアを目指す

ドキュメント

利益改善は進展しているか？

- ✓継続した原価改善活動により、営業利益率は毎年改善

2005年度 3.9% ■▶ 2008年度 4.6% ■▶ 2010年度 9%

2013年度には、10%以上を達成させる

プロダクション事業・MPS事業やローエンド領域など成長分野の状況は？

- ✓プロダクション事業・MPS事業とも、米国ゼロックスと併せてワールドワイドでリーディングポジション
- ✓豪州・教育機関2200校、約6万台の出力環境を最適化する最大規模MPS契約を締結
- ✓ハイエンドのみならず、ローエンド領域を拡大 (A4カラープリンター)

フラットパネルディスプレイ材料事業

足下の動向は？

- ✓9月に底打ち、受注は若干の回復傾向にあるが、在庫調整影響は当面継続する見込み。セットメーカー・パネルメーカーの採算が厳しく、材料への値下げ圧力が強まっている。

OLEDパネル出現の事業への影響は？

- ✓中小型OLEDは一定の成長はあるものの、大型液晶に代わる革新性にはまだ至らない。当社はOLEDにも搭載可能な材料を開発中。

事業のさらなる成長は？

- ✓大型テレビ向け製品でのシェアアップ。
- ✓薄型・中小型タッチパネル需要増も新製品で取り込む。

デジタルカメラ

「X」シリーズによる高級路線を開拓

最高画質を追求した高級機種ラインの拡充によりさらなる販売増を目指す



X100

2010年度末市場投入



X10

2011年度秋市場投入



X-S1

2011年12月7日発売



来春
発売予定

ミラーレス一眼

・累計販売台数約10万台・目標販売台数約30万台

Q5 フリーキャッシュフローの用途は？

M&Aでの成長投資を重視した上で、配当性向25%以上の配当と、株価水準を加味した機動的な自社株買いなどによる株主還元に充当



年間FCF (2011年度~2013年度の各年度)

参考データ 2011年度の業績見通し

(単位:億円)

	2010年度 実績		2011年度 予想		前年度比		【参考】 2011年度上期 実績	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	22,171	100.0%	22,900	100.0%	+729	+3.3	10,834	100.0%
営業利益	1,364	6.2%	1,365	6.0%	+1	+0.1	590	5.4%
税金等調整前 当期純利益	1,171	5.3%	1,075	4.7%	-96	-8.2	327	3.0%
当社株主帰属 当期純利益	639	2.9%	540	2.4%	-99	-15.4	149	1.4%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	131.30円		112.10円		-19.20円		30.93円	
1株当たり 年間配当金	30円		35円		+5円		-	
為替 :米ドル :ユーロ	86円 113円		78円 109円		-8円 -4円		80円 114円	

2007年度の為替・原材料水準では 2,407億円の最高益レベルを確保
為替感応度(年間/営業利益) 米ドル 11億円 ユーロ 7億円